

企業ニュース ダイト

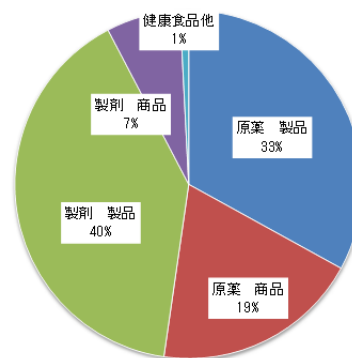
(東証1部：4577) <http://www.daitonet.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

商社機能も持つ原薬・製剤の一貫製造メーカー

1942年、大東亜薬品交易統制として設立。富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制を行う。配置用医薬品製造（1949年開始）、原薬販売（1950年開始）、ジェネリック医薬品製造（1976年開始）、原薬製造（1979年開始）など事業領域を拡大させてきた。1991年、現在の社名に商号変更した。原薬から製剤まで一貫製造を行う医薬品メーカー。主要ビジネスモデルは医薬品メーカーへの販売や委託販売、および製造受託。開発品目はジェネリックの原薬及び製剤で販売並びに開発に係るコストを抑え製造への経営資源の集中を図っている。ジェネリック医薬品使用促進などの政策を追い風に業績は拡大傾向にある。2020年を目標とするジェネリック医薬品の数量シェア80%達成以降も見据え、抗がん剤などの高薬理活性剤市場やグローバル展開などに注力している。

◇18.5期売上高構成比



(出所) ダイト資料よりCAM作成

ジェネリック市場の拡大を背景に成長

19.5期・第2四半期累計（6-11月）業績は売上高が201億円、前年同期比2%減、営業利益が23億円、同3%増。原薬では一部仕入商品の販売減少、製剤では医療用医薬品における新薬や長期収載品の製造受託の販売が減少し減収となったが、自社製品の販売増と生産性向上などにより増益を確保した。

19.5期の会社計画は売上高が408億円、前期比2%増、営業利益が43億円、同3%増。原薬・製剤の商品部門での競争激化、製剤・製品での製造受託の減少を、自社ジェネリック医薬品の増加で補う計画。費用面では第八製剤棟の竣工（2018年11月）があり減価償却費など費用は増加しようが、上市品（2018年6月、12月新規収載分）などの拡販で吸収できよう。売上高、営業利益の過去最高を更新する見込み。FDA（米国食品医薬品局）よりALS（筋萎縮性側索硬化症）治療薬「リルゾール錠」の承認を取得（2018年10月）、グローバル展開にも進捗がみられる。

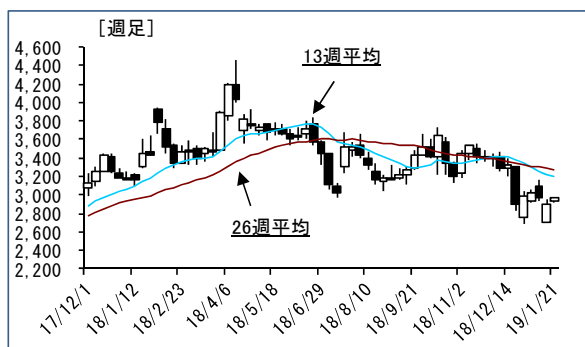
[株価動向・投資判断]

ジェネリック市場拡大の恩恵を享受できる銘柄として注目したい。生産能力増強投資も継続しており、中期的な成長を見込む。グローバル展開にも期待できよう。

<4577 ダイト 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円		円	
17.5	37,984	(4)	3,832	(8)	3,878	(4)	2,656	(4)	212.3		記33.00	
18.5	39,875	(5)	4,161	(9)	4,244	(9)	3,041	(14)	243.1		33.00	
19.5 予	40,800	(2)	4,300	(3)	4,350	(3)	3,100	(2)	247.7		36.00	



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/1/21)	2,960 円
昨年来高値(高値日)	4,455 円(18/4/9)
同 安値(安値日)	2,688 円(18/12/25)
予想 P E R (19.5 予)	11.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,359.5 円
P B R	1.25 倍
予想配当利回り	1.22 %
(1株当たり配当金年36.00円)	
R O E (18.5)	11.4 %
発行済み株式数	1,252 万株